

## 第 2-4 回

(2015.10.13,20,27)

## 資料調査の入り口

カール・ベッカー教授(こころの未来研究センター)

### ■ 第 2 回:演習(KULINE の使い方) 10 月 13 日(火)

- 場 所: 学術情報メディアセンター南館 203 演習室
- 出席者: 18 名
- 配布物: 講義資料(KULINE 講義・PandA 解答方法)、演習問題、演習解説、参考資料、授業で用いるツールの紹介

#### 《前半》

##### ➤ 北村先生によるスタッフ紹介

##### ➤ ベッカー先生による授業の概要・目的の説明(14:45 - 14:55)

- 冒頭に北村先生より「資料調査の入り口」を担当する教員および演習補助者の紹介があった。その後、ベッカー先生による、本パートの概要・目的の説明がなされた。

##### ➤ 授業で用いるツールの紹介(14:55 - 15:00 担当:小野)

- 本授業で用いるツールとして、授業 HP、Twitter、学習サポートデスク、PandA の紹介を行った。PandA に受講生がログイン可能かテストを行い、未登録者の手動登録を行った。

##### ➤ KULINE 講義(15:00 - 15:25 担当:宮田)

- 「参考文献」リストについての説明を行い、「参考文献」リストから書誌情報を読み取る方法を解説した。読み取った書誌情報を使って KULINE を検索し、検索のテクニックや検索結果の見方を例示した。

##### ➤ 演習への解答方法の説明(15:25 - 15:30 担当:宮田)

- 課題で用いる PandA のクイズ機能に慣れてもらうため、例題を解く時間を設けた。

#### 《後半》

##### ➤ KULINE 演習(15:30 - 16:05)

- KULINE を用いて、演習問題の図書所蔵を検索する課題を与えた。検索結果は PandA のクイズ機能を用いて回答してもらい、時間内に全員提出した。演習補助者は室内を巡回し、受講生の回答状況を見てアドバイスをし、質問の対応にあたった。

##### ➤ 演習解説(16:05 - 16:15 担当:山上)

- 受講生の提出を確認した後、演習解説を行った。冒頭の部分等、皆が解答できている部分は適宜解説を省略し、時間内に解説を終えるよう工夫した。

(文責:小野恵理子)

## ■ 第3回:講義 10月20日(火)

- 場 所: 学術情報メディアセンター南館 203 演習室
- 出席者: 15 名
- 配布物: ベッカー先生講義資料、宿題

### ➤ 先生の講義 -大学レベルの論文の作成- (14:45 - 16:10)

- ベッカー先生から以下の内容について講義があった。
  - ・論文とは: エッセイ、感想とは異なり、根拠を挙げながら独自の見解を示すことが求められる。
  - ・概念の整理: 論文を作成する際には、細かい部分にいきなり取り組むのではなく、自分の研究テーマを大きな枠組みの中で捉えて問題関心を明確化しなければならない。そのためには研究テーマの上位語・下位語・関連語を検討して概念整理を行うことが必要である。
  - ・参考図書の活用: 論文の作成には、まず自分の研究テーマに基づいて百科事典等の「参考図書」を引く必要がある。参考図書を調査することで、
    - (1) 自分の研究テーマがどの程度メジャーか
    - (2) 自分の研究テーマの主要参考文献は何か
    - (3) 自分の研究テーマの権威者は誰かを知ることができる。これらは研究における基礎知識として、必ず押さえなければならない事柄である。
  - ・参考図書の引き方: 概念整理によって検討したキーワードに基づいて索引から引く。凡例に目を通して記号や用語の意味を確認する。バランスの取れた情報を得るために、2種類以上のツールを使う。(上記について「森鷗外」を『日本大百科全書』から調べる場合を例として解説)
  - ・次週課題の予告: 次週(第4回)はこの講義の内容を踏まえ、受講生の関心に応じた、テーマ設定、概念整理、参考図書の調査、基本文献の所在確認を内容とした課題(図書館実習)を附属図書館で実施する。

### ➤ 宿題の説明 (16:10 - 16:15 担当:宮田)

- 演習補助者から配布した宿題について説明した。講義の内容を踏まえて、自分の関心のあ  
るテーマを2つ設定し、それぞれについてアプローチする分野、キーワードの概念整理、調  
査テーマのタイトルを回答するよう指示した。
- 次週の図書館実習は宿題で設定したテーマのうちの1つを利用して実施するため、回答し  
た宿題は次週必ず持参すること、教室が附属図書館に変更になることを併せて連絡した。

(文責:宮田 怜)

## ■ 第4回:演習 10月27日(火)

- 場 所: 附属図書館3階ライブラリーホール / 同1階参考図書コーナー
- 出席者: 17名
- 配布物: 講義資料、図書館実習解答用紙、事典リスト、統計資料等リスト、アンケート

### 《前半》

#### ➤ 先生による概念整理についてのフォローアップ(14:15 - 15:00)

- 当初は事前課題として課した宿題(実習で調査するテーマ・キーワードの設定)について受講生からベッカー先生が質問を受けつける予定だった。しかし、質問が挙がらなかったため、ベッカー先生が何人かの学生に調査する予定のテーマについて尋ね、これを講評することにより、調査前の概念整理について解説を実施した。

#### ➤ 図書館実習説明(15:00 - 15:08 担当:山上)

- 実習に向けてまず参考資料(レファレンスブック)のおさらいを行った。一般図書との違いを説明するとともに、「索引から引く」、「項目欄では、執筆者・参考文献をチェックする」等事典類を使用する時のポイントについて重点的に説明した。
- 実習内容について解答用紙も見てもらいながら説明を行った。参考資料の書誌情報を解答させる設問があったため、奥付の見方についても簡単に解説した。

### 《後半》

#### ➤ 図書館実習(15:08 - 16:05)

- 参考図書コーナーにおいて参考資料を使用し、宿題で設定したテーマ・キーワードに一致する、あるいは関連する項目を調査。その後、調査した項目に掲載されている参考文献もしくは項目の執筆者が書いた著作が京大内に所蔵しているかKULINEで検索させた。演習補助者は館内各所にて、受講生の誘導と質問の対応にあたった。

#### ➤ アンケートの記入と次回授業の告知(16:05 - 16:15)

- ライブラリーホールに受講生が戻った時に紙の形で配布し回答してもらった。
- 次回授業の告知を行った後、希望者は授業後に解答用紙を提出できる(ただし授業内より評価は下がる)旨を受講生に伝えた。時間が押していたため、具体的な説明は授業後に希望者のみに行った。

(文責:山上朋宏)